

# TOKUSHIMA DOYU-kai NEWS

No.176

1

JAN 睦月

2015年1月1日発行



1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強固な経営体質をつくることをめざします。

2. 同友会は、中小企業家が自主的な努力によって、相互に資質を高め、競争を喚起し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく社会的・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、その自主的・平和的な繁栄をめざします。

11月  
城西支部・  
政策委員会  
共催例会

## 謹賀新年

本年もよろしくお願いいたします。

### 11月城東支部例会



### 11月北支部例会



徳島同友会  
ニュース

CONTENTS

- P2. 11月西支部例会報告
- P2. 11月城東支部例会報告
- P3. 11月南支部例会報告
- P3. 11月北支部例会報告
- P4. 11月城西支部例会報告
- P4. 政策委員会特別例会報告
- P5. 阿南工業社長塾報告
- P5. ファシリテーション講座
- P5. 社員さん数珠つなぎ
- P6. そこが聞きたい経営指針
- P7. 今月の徒然
- P7. 理事会報告・ニューフェイス紹介

発行元: 徳島県中小企業家同友会  
発行元住所: 徳島市問屋町43番地  
TEL: 088-657-7363  
FAX: 088-657-7364  
E-mail: info@tokushima.doyu.jp  
http://www.tokushima.doyu.jp/

12月9日 現在の会勢	各支部会員数		目標
	支部名	会員数	目標
403名	徳島城西支部	81名	90名
	徳島城東支部	83名	98名
	徳島南支部	84名	90名
	徳島西支部	71名	70名
	徳島北支部	84名	86名

## 11月城西支部・政策委員会共催例会(11月28日)

### 社員が主役、会社がステージ

～緻密な経営に裏打ちされた自由な組織風土の実現～

講師:(株)ファースト・コラボレーション【高知同友会】  
(不動産賃貸の仲介・管理)

代表取締役 武樋 泰臣 氏



18歳で自衛隊に入隊しましたが2年で退職。その後、転職を繰り返して28歳で不動産業界に入りました。

#### 社員が主役の会社づくり

2002年に2つの会社から業務移管を受け、エイブルのフランチャイジーとして2店舗を開業しました。いろいろな組織風土を体験したことから、「社員の幸せを実現できるフラットな組織をつくりたい」という思いがありました。が、どんな会社をつくりたいかという思いが共有できておらず、組織風土はギスギスしていました。目指したい会社との違いに困り果てていた時に同友会を紹介してもらい、創業1年後に入会しました。入会後は社員全員を例会に連れていき、社員と一緒に経営理念と経営指針を成文化しました。

次に着手したのは評価制度です。行動評価シートと業績評価シートを作成し、年3回社員同士が先輩後輩、部門の枠を

超えて評価し合い、目標を設定しています。また、就業規則も社員が社労士と一緒につくっています。

不動産業界では珍しい、命令なし、ノルマなし、歩合なし、飛び込み営業なし、役職なしという、働く人がストレスをためない経営スタイルを貫いています。その結果、全国800店舗の加盟店による顧客満足度調査で4年連続日本一となり、3000人以上の営業マンが競う個人部門でも、2006年度以降全国1位をはじめ上位入賞を果たしています。先輩が1位をとったら、翌年にはそれに続く後輩も出ています。

2006年5月、戦力だった女性社員が結婚・出産を機に退職したことがきっかけとなり、「働くママさん計画」をスタートしました。女性社員の出産計画のない時期に新店舗を出店し、勤務時間や勤務日、勤務日数は本人の自由、勤務店舗も自宅や実家、保育所の場所により決めています。また、社内に授乳コーナーも設置しました。親子で入社しても良いし、昼寝も奨励しています。社員には、「仕事よりもパパ・ママの都合を優先していいよ」と伝えています。

#### いちばん大切なことを、いちばん大切に

2011年度には「四国でいちばん大切にしたい会社大賞」奨励賞をいただきました。「会社の発展と個人の幸せとの一致を目指す」という経営理念を掲げ、社員と人生設計を共有してきたことが受賞につながったと思っています。

今後は、「世界でいちばんの「超家族」カンパニーを目指します」という100年ビジョンを掲げて、会社と社員のつながり=エンゲージメントを深め、お客様にも支持される、誇れる経営理念を大切に育てていきたいと思っています。

記:(公社)徳島県労働者福祉協議会 兼松 文子

## 政策委員会特別例会(11月10日)

### 持続可能な農業への道筋

～坂ノ途中の取り組みから～

講師:(株)坂ノ途中  
(農作物の流通・提案業、新規就農者の支援事業)

代表取締役 小野 邦彦 氏



#### 設立にあたって

農業や化学肥料の使用を前提とした現在の農業は、低コスト・大量生産が可能となる一方で、野菜に栄養分を供給する微生物を排除してしまい、土が痩せて化学肥料への依存度を高めるという悪循環を繰り返しています。このように、将来の収穫量を犠牲にして今の収穫量を確保している現在の農業は、環境に負荷の高い「未来からの前借り」の上に成立しています。

学生時代から「環境負荷を減らしたい」「未来に負担をかけたくない」という強い思いがありました。そこで、農業や化学肥料に頼らない土づくりを主体とした農家を増やし、その農産物を流通する仕組みを使って持続可能な農業システムを作ろうと、2009年に(株)坂ノ途中を設立しました。

#### 様々なプロジェクト

我々と同じような問題意識を持ち就農を志す人は増えてい

ますが、その大半があきらめてしまいます。私は、生産が少量不安定なため販路が見つからなかったこの美味しい野菜をレストランやネットで販売する仕組みを作りました。

また、少量不安定でも野菜が売れることで農業を継続する自信を持ってもらい、今後に繋げて欲しいとの思いから、小さな八百屋「坂ノ途中soil」を始めました。

一方で、現在は毎年耕作面積が減っており、それを補うには毎年1万人の新規就農者が必要になってきます。誰でもができる農業で新規就農者を増やし、持続可能な農業の更なる普及のため、自社農場「やまのあいだファーム」の運営を始めました。自然農や有機肥料、無農薬で作る野菜の栽培に加え、人材育成をして環境負荷の小さい農業を実践する農業者を支えています。

また、1週間就農して生活を体験してもらう「就農準備トライアスロン」や、日本だけでなく東アフリカのウガンダでも痩せた土地をゴマ栽培で蘇らせようと、有機農業の普及活動に取り組むプロジェクトも行っています。

#### 経営者として譲れないもの

経営者として譲れないものは価値観(理念)です。そのために行っていることは、①目的や伝えたいメッセージの明確化、②共感し行動してもらいやすい仕組みづくり、③一番大事なもの(提携農家)を大切にすることです。

毎年1万人は無理でも、せめて1%にあたる100人の新規就農者を生み出せる会社にしていくことを目標に、今後も様々なプロジェクトに取り組んでいきたいと思っています。

記:事務局 桃原 友紀